

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名	伊勢原市立比々多小学校
-----	-------------

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
A問題	<p>【国語】 漢字を正しく読むことや目的に応じて図と表を関係付けて読むことについては、おおむね良好であった。</p> <p>【算数】 不等号の理解が良好であった。また、繰り下がりのある減法、小数や分数の計算等、計算の「技能」についてはおおむね良好であった。</p>	<p>【国語】 漢字を正しく書くことやローマ字の読み書き等の「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。</p> <p>【算数】 割合の基準量と比較量の関係や空間図形の面と面の位置関係の理解に課題が見られた。領域別の正答率のグラフでは、県や全国と比較して「図形」の領域に凹みがあり、課題があることが読み取れた。</p>
B問題	<p>【国語】 目的に応じて複数の本や文章を選ぶこと、目的に応じて効果的な読み方を工夫することは良好な結果であった。</p> <p>【算数】 示された条件を基にほかの図形について同じきまりが成り立つか検証する設問や正方形に内接する半径についての理解を問う設問はよい結果であった。</p>	<p>【国語】 自分の考えや理由を書く記述式の設問では、全ての条件を満たした記述ができていない児童が多かった。無回答もあった。</p> <p>【算数】 理由や説明を記述する問題については、全国や県と同様に課題があり、無回答がやや多い設問もあった。</p>
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童が朝食を食べており、睡眠時間も8時間程度は取れている。家での手伝いや地域活動への参加に積極的に行っている。 ・ほとんどの子が「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「困っている人を進んで助ける」と答えている。 ・「将来に夢や目標を持っている」児童は9割を超え、「自分によいところがある」「失敗を恐れず挑戦している」と答える児童の割合も年々増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ等の視聴時間が2時間以上の児童が6割を超え、テレビゲーム等は2時間以上が4割弱、携帯電話等での通話やメール、インターネットは2時間以上が1割強と、どれも増加している。 ・ほとんどの児童が「宿題をしている」が、「家庭での学習時間(塾や家庭教師を含む)が1時間未満」の児童が平日で6割強、土日で7割弱である。 ・「読書が好き」な児童の割合が大幅に減り、5割強で、8割以上の児童が「読書が30分以内」である。

2① 授業の充実に向けた重点的な取組

発問や指示を厳選し、考える時間・相談する時間・深め合う時間を大切にしていく。また、学習の始まりにめあてや課題を明示し、学習の終わりにはめあてが達成できたか、何がわかったかなどの振り返りを行うようにする。

国語では、自分の考えを発表したり、話し合いをしたりといった活動は活発になってきている。そこで、自分の考えや学習の振り返り等を文章で記述する機会を増やすことで、書く力の育成や書くことへの苦手意識の克服をしていく。また、文章に親しむ機会が増えるよう、朝の時間を活用した読書タイムの活用や、学級文庫の充実などの取組を進めていく。同様に、本校で行っている「読み聞かせボランティア」の活用と充実をはかっていく。漢字の書き取りやローマ字の読み書きなどは、くり返し学習することで定着を図っていく。

算数では、国語と同様に自分の考えや学習の振り返り等を文章で記述する機会を増やしていくことで、理由や説明を記述する力を育成していく。同時に、図を用いて考えたり、自分の解答の妥当性を検証したりする活動を大切にして、問題を正確に捉える力、さらには、少し難しいと思われる問題にも挑戦する意欲や意志の育成をしていく。

2② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項) ※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方に知っておいてほしい内容

各家庭において、「早寝早起き朝ごはん」について、かなり意識をして取り組んでいただいている様子が各調査に表れています。基本的な生活習慣の充実については今後もよろしくお願ひします。

一方で、家庭学習については、宿題と塾等の学習がそのほとんどになっているようです。長時間ゲームやインターネット等を使う習慣を、毎日教科書を開いてその日の復習や明日の予習などに自分で計画を立てて取り組む習慣に変えていくよう、お願ひします。その際、伊勢原市教育委員会から配布されている「学びのすすめ」も参考になります。自主的な家庭学習や読書が進むよう、働きかけをお願いします。

今年度の調査でも、家庭や地域で子どもを見守り、健やかな成長を支えている様子が見て取れました。地域の行事に参加している子どもが多いなど、比々多地区の地域性がよく表れています。地域の方々と連携し、協力していただく中で、子どもが活動できたり活躍できたりする場の設定や地域住民と関わる機会を充実していきたいと考えます。これによって、子どもの自己肯定感や自己有用感の向上を図っていきたく考えています。